

初個展から現在までおよそ6年間、私は匿名の風景を描き続けています。

記憶に沈積したイメージを幾度も推敲し、形ある表現へとにじり寄せてゆく過程は遅々としており、歯がゆく感じる時もあります。しかし、そうして形成される情景はゆっくりと変遷してきました。

私たちが包囲する景色には輪郭線がありません。もの同士が重なり合い、大気は幾層にも連なることによって奥行ある風景として立ち現れています。

しかし、ものが存在することで空間は区切られて見え、構造を把握するために私は明瞭な線を引いてきました。

その空間を構成する輪郭線の、あるいは対象となるシルエットのエッジが近年の表現では柔らかかになっています。線に対する解釈がより得心ゆくものへ変質してきたのです。

日々、私自身を形成してきたであろう光景を探索することで、かつて田園に親しみ、浴びた風の匂いがより一層の臨場感を伴い甦りつつあるのかもしれませんが。

それは湿度ある場に風が吹くと色彩は揺れ、視界一面が深い色に染まるのです。そんな情景を反芻させ筆を運ぶと、形象は大気を孕み記憶の中でしか出会えない風景との調和を帯び始めました。

馬場俊光

BASE GALLERY
103-0025
東京都中央区日本橋茅場町1-1-6
小浦第一ビル1F
tel : 03 5623 6655
fax : 03 5623 6656
info@basegallery.com
www.basegallery.com